

2025 年度「第 1 回須坂市地域包括支援センター運営協議会」
「須坂市地域密着型サービス運営委員会」会議録

1 開催日時・場所

2025 年 7 月 30 日（水）午後 1 時 30 分～午後 3 時 須坂市役所東庁舎 3 階第 4 委員会室

2 出席者（17 名）

五明 会長	柄澤 副会長	佐藤 委員	吉田 委員	飯田 委員
竹前 委員	久保田（純）委員	笠井 委員	久保田（光）委員	清水 委員
北澤 委員	渡辺 委員	湯本 委員	青木 委員	遠藤 委員
松本 委員	上原 委員			

3 欠席者

なし

4 事務局出席職員（14 名）

萩原健康福祉部長

関野高齢者福祉課長兼地域包括支援センター所長

地域包括支援センター：津山地域支援係長 中村介護予防係長

小林社会福祉士 六川保健師

望月保健師 永井主任介護支援専門員

高齢者福祉課：滝澤高齢者福祉係長 宮尾介護保険係長

坂田介護保険係担当係長 中隅介護保険係主査

地域包括支援センター須坂やすらぎの園（地域包括支援センター運営協議会のみ出席）

野崎センター長 山口主任介護支援専門員

5 傍聴者

なし

6 配布資料

資料 1 須坂市地域包括支援センター運営協議会設置要綱

資料 1－①

- ・地域包括支援センター事業 2024 年度報告及び 2025 年度の取組
- ・介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務 委託契約事業者一覧
- ・須坂市高齢者いきいきプラン(2024～2026 年度)の目標指標と実績
- ・2024 年度須坂市地域包括支援センター地域支援事業決算書
- ・2024 年度須坂市地域包括支援センター須坂やすらぎの園収支決算報告書

- ・ 2025 年度須坂市地域包括支援センター地域支援事業予算書
- ・ 2025 年度須坂市地域包括支援センター須坂やすらぎの園収支予算書

資料 1－② 地域包括支援センターの事業評価について

資料 2 須坂市地域密着型サービス運営委員会設置要綱

資料 2－① 2024 年度地域密着型サービス運営状況

資料 2－② 指定地域密着型サービス事業所一覧

資料 2－③ 地域密着型サービスへの運営指導状況

8 開 会

9 あいさつ（五明会長）

地域包括支援センターは、須坂市の高齢者がいきいきと安心して暮らし続けるための環境づくりを目指しています。

須坂市は、健康寿命が男性 81.2 歳、女性 86.3 歳と非常に優秀な自治体ですが、65 歳以上が 33.4% と超高齢化社会です。介護を受けている 65 歳以上の夫婦 2 人暮らし、つまり老老介護の割合が 20.2%、介護を受けているひとり暮らしが 23.0%と、合わせて 40%程度を占めています。介護を受けていない元気な高齢者については、65 歳以上の夫婦 2 人暮らしが 35.2%から 37.6%へ、ひとり暮らしが 13.7%から 14.3%と増加傾向で、いざ介護が必要になったときに支援を必要とする高齢者が 50%を占めています。

寝たきりの原因は、認知症をトップに、高血圧や糖尿病からくる脳梗塞や心筋梗塞、運動機能低下からくるフレイル等が大多数を占めています。これらの予防のための様々な事業を地域包括支援センターで行っていますが、介護予防サポーターの人員強化や認知症に対する理解を深める取組では苦勞が多いと聞きます。

今年度は 3 年間の高齢者いきいきプランの 2 年目になります。委員の方には、課題解決に対する新たな知識を提供していただけると期待しております。

10 自己紹介

11 議事

（1）須坂市地域包括支援センター運営協議会

- ① 2024 年度事業報告及び 2025 年度の取組について
- ② 2024 年度地域支援事業決算及び 2025 年度予算について
- ③ 地域包括支援センターの事業評価について

資料をもとに、事務局より説明

■これに対し、委員より次のような質問・意見が出された。

（委 員）「新しい認知症観」について説明をお願いしたい。

（事務局）認知症施策において国と同様に須坂市では「新しい認知症観」の理解の普及を進めてい

ます。「新しい認知症観」とは、認知症になったら、何もできなくなるのではなく、認知症の人にはできること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながりながら、自分らしく暮らしたいという希望があることなど、認知症の人が認知症とともに希望をもって生きるという考え方のことを言います。

(事務局) 介護予防サポーターの活動人数が横ばいとなっており、増加に向けた取組みについてご意見ををお願いします。

(委員) 「介護予防サポーター」というネーミングが少し重く感じる。より身近に感じられるように、ネーミングの検討はいかがか。介護予防サポーター同士のコミュニケーションが取れるような場があるとより活発な活動につながりやすいと思う。

(事務局) より身近に感じられ、参加したくなるように考えていきたいと思います。

(事務局) 市民が認知症を自分ごととして考え、理解を深めていくためにはどのような機会や取組みがあるとよいかご意見ををお願いします。

(委員) 認知症サポーター養成講座や認知症キャラバン・メイトの研修を受ける中で、自分の中の認知症への考え方が変わってきたと感じている。認知症になることは特別なことではなく、誰でもなり得ることで、本当に自分のこととして考えていくことが大事だと思う。地域包括支援センターでは、認知症サポーター養成講座や認知症キャラバン・メイトの研修の機会を増やしながら、新しい認知症観の理解が促進するよう取組みをしているが、周知方法をより工夫できるとよいと思う。例えば市報や町の回覧板、全戸配布の機会を使い、認知症サポーター養成講座や認知症カフェ、認知症家族のつどいを周知することが大事だと思う。取組みに関わる中で考えたことは、周知に力を入れ、より多くの方に知っていただく機会を増やすことだと思う。認知症の方を介護しているご家族が、自分の体験や困ったこと、悩みを話された機会に同席した時、「勇気を持って初めて参加した」とお聞きした。そのご家族が「みんなに自分の気持ちを聞いてもらってすごくよかった」と話されていたことが印象に残っている。話の後にはレクリエーションをして、「こんなに自分が思い切り笑ったことは、最近なかった」と、いきいきとして帰って行かれたことから、取組んでいる活動はとても大事なことだと感じ、さらに深めてほしいと思う。

以前、「オレンジランプ」という若年性アルツハイマー型認知症になった方の実話をもとにした映画を観て、認知症の方自身が生活しやすいように工夫をし、家族や地域の仲間とともに、いきいきと生活できるようになられた姿に大変感銘を受けたので、この映画を多くの市民に観てもらいたいと思う。

(事務局) 周知に関しては、9月の認知症月間にあわせ、認知症への理解が深まり、市の取組みについて知っていただけるよう市報の内容で考えていきたいと思います。昨年度になりますが、認知症を考える市民講座にて映画「オレンジランプ」の上映を行い、多くの市民の方に鑑賞いただきました。今年度の市民講座は、講師として認知症の方をお招きしてお話いただく予定ですので、市報などを通じて周知を行い、多くの市民の方にお聴きいただきたいと考えています。また、認知症カフェについてはさらに周知が必要と感じて

います。委員には実際に認知症カフェにご参加いただき、どのような取組みをしているか知っていただいております。大変有難く思っています。今後も市の取組みを多くの市民の方に知っていただけるよう、引き続き周知に力を入れていきたいと思っております。

- (委員) 認知症施策については重要な部分を占めていると思うが、介護事業者としても重要視しているところになる。昨年の介護報酬改定で、無資格の介護職員に対し、認知症の研修が義務化されている。しかし、皆さんもご存知のとおり、全産業含めて労働人口の減少から、介護事業者だけでは人材不足の部分がある。市は地域の皆さんに認知症の理解が深まるように周知をしてもらい、配置されている生活支援コーディネーター等を中心につなぎ役をしてもらうことが一つ大切だと思う。

資料中の2024年度認知症サポーター養成講座の改善点のところに、小中学校への開催の呼びかけをしたと記載してあるが、実際に講座を開催されたかお聞きしたい。小中学生の頃から認知症を知り、理解を深めることは大変重要だと思う。子どもの頃から認知症サポーター養成講座を通じて、認知症の理解が促進されるよう取組んでいただきたい。認知症キャラバン・メイトも多くいると思うので、企業向けにも取組みができればいいと感じるためご検討をお願いしたい。

- (事務局) 認知症サポーター養成講座の小中学校へ開催の呼びかけに関しては、昨年度小中学校の校長会で周知させていただきましたが、それぞれ学校も年間計画が組まれていることから、講座の開催には至りませんでした。今年度は、認知症啓発の取組みの一環であるオレンジガーデニングプロジェクトの中で須坂創成高校農業科の生徒さんに、認知症サポーター養成講座を受講いただき、認知症への理解を深めた上で花苗を育てていただいたり、配布にもご協力いただきました。

- (委員) 認知症サポーター養成講座を開催される際には協力するので、依頼いただきたい。

- (事務局) 是非、ご協力をお願いします。

- (委員) やっぱり自分が認知症になるとこういう気持ちになるのだというのがなかなか表に出てこない印象があるので、認知症の方がもう少し表に出るような場とか、活動できる場があればいいなと思っている。ちょうど市民講座で認知症の方がお話ししてくださる機会があるそうで大変良いと思う。

他県で「注文を間違えるお店」がある。認知症の方がオーダーを取りに行き、接客をして、お金もいただいて、お釣りも返すというお店で、予め「注文を間違えます」「お釣りも間違えます」と表に出している。周囲が認知症の方を理解して、もう少し明るい目線で周りが見えていくようなお店であるが、現実的にお店をやるのは大変なことだと思う。そのお店のような感じで「認知症になってもそんなに怖いことじゃないよ」ということを感じられるような場があればいいと思う。認知症の方が出ていけることで、周囲も認知症への理解を深められるきっかけになるのではないかなと思う。

- (事務局) 認知症の方が自分でできることがあったり、間違えることはあっても外に出て行き、趣味や得意なことで活躍できるような社会は素敵だと思います。現在、地域包括支援センターの職員も認知症の方に向き合い、対話することで今までの生活をお聞きしたり、これからは希望を持ってやりたいことは何かなどお聞きしています。認知症の方がやりたい

こと、希望することをこれからも続けられるような支援ができればと考えています。9月の市民講座では多くの方のご意見をお聞きし、ヒントを得たいと思っております。

(3) 須坂市地域密着型サービス運営委員会

- ①地域密着型サービス運営状況について
 - ②地域密着型事業所指定状況について
 - ③地域密着型サービス事業所への運営指導の実施について
- 資料をもとに、事務局より説明

■これに対し、委員より質問・意見はなかった。

12 その他

■全体を通して、委員より質問・意見はなかった。

(荻原健康福祉部長あいさつ)

本日は長時間にわたり、熱心なご審議をいただき誠にありがとうございました。

皆様から頂戴いたしました貴重なご意見やご指摘は今後の取組みを進める上で、大変参考になります。これらを真摯に受け止め、十分に検討を重ねてまいります。

地域の高齢者の皆様が、これからも元気でいきいきと安心して暮らせるよう、介護予防やフレイル予防、認知症予防を含め、より質の高い効果的な支援が提供できるよう、地域住民の皆様、事業所の皆様、そして関係機関の皆様と連携しながら事業を推進してまいります。

今後とも、委員の皆様のご指導、ご鞭撻を受け賜りますようよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

13 閉会

以上